

催吐リスク High(apr)

乳 A60+C600/d1/c21d×4c

薬剤名	投与経路	投与量	希釈液	点滴時間(分)	投与日(day)
アプレピタント	内服	125	mg		1
			mg		
デキサメタゾン	注射	9.9	mg		1
グラニセトロン	注射	1	mg	生食 100 mL 30	1
ドキシソルビシン	60	mg/m ²	生食	100 mL 全開	1
エンドキサン	600	mg/m ²	生食	100 mL 全開	1
				mL	
				mL	
				mL	

内服薬

アプレピタント 80mg 分1 朝食後 day2,3

デキサメタゾン 8mg 分2 朝昼食後 day2,3,4

オランザピン 5mg 分1 眠前 day1,2,3,4,5

投与基準等

II. 投与基準 (例:白血球 $\geq 2000/\text{mm}^3$ 、好中球 $\geq 1000/\text{mm}^3$)好中球 $\geq 1000/\text{mm}^3$ 投与可延期 1週間以内に $\geq 1000/\text{mm}^3$ 減量なし血小板数 $\geq 100,000/\text{mm}^3$ 悪心嘔吐を除く非血液毒性 $< \text{Grade } 3$

Ⅲ. 減量基準 (例:Grade3 以上の好中球減少時、次回より投与量を80%に減量)

投与予定日の血液検査

延期 1~3 週間以内に $\geq 1000/\text{mm}^3$ 20%減量

3 週間延期しても $< 1000/\text{mm}^3$ 化学療法中止

以下の有害事象が起きた際には、次回より、投与量を 80%減量とする。

- 高リスク発熱性好中球減少
- Grade4 好中球減少($<500/\text{mm}^3$)が 7 日以上
- Grade4 血小板減少($<10,000/\text{mm}^3$)
- Grade3 血小板減少($10,000-<50,000/\text{mm}^3$)+出血傾向

Ⅳ. 重大な副作用 (例:好中球減少 Grade3 以上37. 5%)

好中球減少 Grade3 以上 54-59%

発熱性好中球減少 Grade3 以上 2~4%

嘔気 Grade3 以上 5-7%

嘔吐 Grade3 以上 0-6%

添付参考資料(文献・ガイドライン・治験計画書・研究計画書)

J Clin Oncol 27:1177-1183, 2009、JCO 24:3187, 2006、ECOG5103 プロトコール